雜 纂

咽喉部天疱瘡ワンスン氏安魏那 生體ノ二次的感染

*Pemphigus with Throat Lesions: Secondary
Infection with Vincent's Organisms. Dr. Leo
Schwarz.*

(The Laryngoscope No. 4, Vol. XL, 1930)

メノー氏ハ一九〇五年百三十五名ノ慢性天疱瘡患者中四一%ハ粘膜ニ罹患部位ヲ認メタリ。天疱瘡ハ皮膚ニ限ラレタル疾患ト見ルベキデハナクシテ、皮膚並ニ氣道、消化道、眼結膜、内臓ノ粘膜ヲモ包含スベキハ云フ迄モナイ。天疱瘡ハ皮膚ニ發現スル前ニ粘膜ニ發現ヲ見ルハ屢々見ル所デアル。

ギルバート氏ハ一八一三年粘膜ニ來ル急性天疱瘡ヲ報告シ、ミラー氏ハ一八九七年口腔及ビ會厭軟骨粘膜ニ來ル慢性天疱瘡ヲ報告シテキル。ミラー氏ノ報告ハ米國ニ於テハ最初ノ報告ト思ハル。爾來フアロー氏、コック氏、フレデリック氏、コフィン氏、ゾンネンシャイン氏、ルプスタイン氏等ノ報告ガ相ツイデ現ル、ニ至ツタ。之等ノ症例ニ於テハ、病變ハ粘膜ニ限ラレ、或ハ粘膜ニ最初現レ次デ皮膚ニ及ンダモノデアル、ローランツ氏ハ三年間粘膜ノ天疱瘡ヲ患ヒ皮膚ニ病變ノ現レザリシ婦人ノ一例ヲ報告シテキル。レウイス氏ノ

報告ハ口腔粘膜ニ二〇ヶ月限局サレ然ル後皮膚ニ現レシ症例デアルコフィン氏ノ報告ハ口腔内ニ四ヶ年モ限局サレシ例デ、フクス氏ハ一ヶ年間皮膚ニ發現スル事ナクシテ粘膜ノミニ存セシ記述ヲ爲シテキル。ラノイス及カール氏ハ皮膚發現ヲ見ズシテ五ヶ年間繼續セル一例ヲ、フレデリック氏ハ咽頭粘膜ニ初發シテ死ノ轉機ヲトリシ一例ヲ報告シタ。尙コック氏ノ粘膜ノミニ限ラレシ一例ソノ他四例ノ報告ガアル。トラウトマン氏ハ原發部位ニヨリ分類シテ(一)粘膜ノミニ限局セルモノ、(二)皮膚、粘膜共ニ存スルモノ、(三)粘膜ニ最初來リ皮膚ハ二次的ニ來リシモノ、トシタ。

一次的、二次的、急性慢性等ノ語ハ人ニヨツテ相違スル所デアル。簡單ニ述レバ天疱瘡ハ皮膚、粘膜、組織ニ來ル疾患デアツテソノ何レカニ初發シ種々ノ強度ヲトル。時ニ急速ニ死ノ轉歸ヲトリ、時ニ輕微ノ障碍ヲ以テ數年間持續スル。粘膜ニ病變ノ來ルモノハ激烈ニシテ屢々急速ナル死ノ轉歸ヲトル事アリ。粘膜天疱瘡ハヨク強度ノ毒性ヲ有スト云フ事ガ出來ル。

病。因。病。因トシテ知ラレテキルノハ極メテ僅少ニ過ギナイ。天疱瘡ハ如何ナル場所ニ於テモ來リ、四季ニヨリテ流行ヲ來ス事ハナイ。好ンデ衰弱セル者及ビ老人ヲ侵ス。女性ヨリモ男性ニ多シトサレテキル。平均年齢ハ五十二歳デ、二十二歳ヨリ七十二歳ノ間ニ多イ。ハイド氏ハ幼兒、小供ニ多シト云ツテキル。

病。因。トシテハ多クノ説ガ述ラレテキルガ、神經ノ萎縮性變化ニヨル榮養神經症ナリト云フ者ト、神經系ノ官能的異常ト云フ者ガアル。

屍體解剖ニヨル所見ハ脊髄神經索ノ硬化が見ラレテキル。菌體ヲ發見スル事ハ何レモ失敗ニ終ツテキル。多クノ皮膚ノ罹患部ヨリハ膿菌ガ證明サレルケレ共二次的感染ト看做スベキモノデ特有ノモノデハナイ。人工的ニ疾患ヲ起サセル事ハ何レモ失敗ニ歸シテキル。病理解剖。早期ニ見ル場合ニハ特有ノ水泡ヲ見ル事ガアル。水泡ハ漿液性ノ滲出液デ充サレ、時ニ血液ヲ混ズル、併シ乍ラ水泡ヲ見ル事ハ寧ロ例外トモ云フベク、水泡ハ早期ニ破レテ内容ヲ出ダシ原形ヲ止ムル事ハ稀デアル。粘膜ノ水泡ハ皮膚ノ水泡ト外觀ハ異ル事ハナイ。水泡ハ壁ガ非常ニ薄キ上食物ノ通過及ビ咀嚼運動ニヨツテ外傷ヲ受ケ易ク破裂スル。口腔ノ窪ニ隠レタル小水泡ヤ、ソノ他ノ外傷ヲ受ケ難キ所、即チ會厭軟骨部ヤ聲門軟骨部ノ水泡ハ時ニ觀察サレル事ガアル。氣管入口部モ同様ニシテ破裂前ノ水泡が見ラレル事ガアル。咀嚼ソノ他ノ外傷ニヨツテ水泡ノ生命ハ甚ダ短ク通常吾人ノ見ルモノハ水泡破裂後ノ像デアル。罹患部位ノ粘膜ハ紅暈デ被ハレ幾多ノ隆起セル肉芽ヲモツテキル。

粘膜自身ハ死ノ外觀ヲ呈シ種々ノ名稱デ記載サレテキル。『義膜』『白色膜樣附着物』『羚羊皮狀』等デアル。膜ヲ除ケバ屢々記載サレテキル特有ノ糜爛ガ現ハレル。或モノハ潰瘍ノ外觀ヲ呈スルケレ共糜爛ト云フ方ガヨリヨキ表現ノ様ニ思ハレル。病竈ハ淺ク、深部ヘ擴ルヨリモ周圍ヘ擴ル様ニ思ハレル。ソノ部ハ非常ニ柔弱デ容易ニ出血スル。

病變ハ尙眼結膜、口唇、舌、口腔粘膜、齒齦、鼻咽腔、喉頭、氣管

氣管枝、口蓋及ビ懸壺垂ニモ來ル。上述ノ場所ノ病變ニ注意スル時ハ常ニ皮膚ノ變化ノ觀察ヲ忘レテハナラナイ。解剖所見ニヨレバ病變ハ消化管ニモ及ビ、筋肉層ニ潰瘍ヲ見ル事アリ。散在性小水泡ガ肝臟、脾臟及ビ肋膜表面ニ觀察サレル事ガアル。

症狀。嚥下痛ハ早發症狀トシテ來ル事ガ多イガ激烈デハナイ。シカシ殆ド必發症狀トモ云フベキモノデ忘レテハナラヌモノデアル。乾燥感、刺戟感ハ屢々前驅症狀トシテ來ル事ガアル。痰ニハ少量ノ血液ノ混ズル事ガアル。喉頭ヨリ來ル症狀トシテハ哽聲、無聲、呼吸困難、喉頭ノ異物感、咳嗽等デアル。寒感及ビ頭痛ガ發病ニ先ズル事ガアル。尙消化管ニ病變ガ及ブ場合ニハ消化障礙ガアツテ來ル。發熱ハ苦痛ノ激烈ナル場合力、二次的感染ヲ來セル場合ノ他ハ通常ナイ。淋巴腺炎ハ通常之ヲ缺キ、二次的感染ヲ來シテモ現レナイ事ガアル。

豫後。豫後ハ概シテ不良デアツテ相應ノ注意ヲセネバナラナイ。多クハ數週又ハ數ヶ月ノ間ニ倒レルケレ共、中ニハ再發ヲ繰返シテ數年間モ生存シ、或ハ治癒スルモノモアル。

鑑別診斷。ワンサン氏「アンギーナ」ト間違フ事ガ多イ。ソレハ罹患部ヨリワンサン氏「アンギーナ」生體ヲ證明スル事ガ非常ニ多イカラデアル。併シ乍ラ二次的ニモワンサン氏「アンギーナ」ハ來ルノデアツテ、屢々天疱瘡ニテ死ノ轉歸ヲトレル場合ニワンサン氏「アンギーナ」ハ死ノ一因トナル事ガアル。カ、ル場合ニハ咽頭ノ汚點ニハワンサンノ生體ヲ證明スルモノデアル。ルペンスタイン氏ハ

ワンサン生體ガ繰返シ汚點ニ存在セシ報告ヲナシテキル。カ、ル場合ニ屢々天疱瘡ハ全然氣附カレズシテ、長期間治療上ノ反應ヲ見ズシテワンサン氏「アンギーナ」トシテ取扱ハレル事ガアル。皮膚ノ所見ヨリ診斷ノ確メラレル事ハ往々見ル所デアル。ワンサン氏「アンギーナ」ハ天疱瘡ヨリモ屢々扁桃腺ヲ侵スケレ共、天疱瘡ハ扁桃腺ニ來ル事ハ甚ダ稀デアル。

ワンサンニヨル潰瘍ハ天疱瘡ノソレヨリモ遙ニ深く且粗雜デアル。天疱瘡ニ於テハ淺クシテ粗デハナイ。

天疱瘡ノ赤色暈ハ特有ノモノデハナイ。ワンサンノ汚灰色ノ附着物ハ天疱瘡ニ似ル事ガアル。殊ニ紡錘狀菌ト螺旋狀菌トノ二次的感染ヲ來セル場合ニハソウデアル。カ、ル時ニハ兩者ノ鑑別ハ甚ダ困難デアツテ天疱瘡ノ存在ヲ頭ニ有スル事ハ非常ニ大切ナ事デアル。實際上ハ、年ヲトリタル惡液質ノ人デ、ワンサンノ治療ニ反應セナイ場合ニハ慎重ニ考慮セナケレバナラナイ。ワンサンガ上述ノ如キ狀況ナラバ、水泡ハ見當ラズトモ天疱瘡ノ存在ヲ推定シテ構ハナイ。ソノ他天疱瘡ガ鑑別セラルベキハ顆粒細胞消滅性「アンギーナ」「デフテリー」「ヘルペス」、梅毒、白斑、結核、汞毒性口内炎、酸及「アルカリ」ニヨル糜爛及ビ火傷デアル。

治療ハ姑息的、保存的デアツテ患者ノ全身狀態ヲ良クスル爲ニ全力ヲ注ガレバナラナイ。砒素劑、コレハ「フオーラー氏溶液」又ハ他ノ形ニ於テ上述ノ目的ニ使用サレテキル。鐵劑モ同様ニ使用セラル、モ好結果ヲモタラサナイ。

雜纂

咽喉部天疱瘡ワンサン氏安魏那生體ノ二次的感染

「アネステジン」ノ「オルトフォルム」ヲ局所ニ使用スル事ニヨリ苦痛ヲ輕減スルハ屢々遭遇スル所デアル。「メチレンブラウ」二〇「グラム」ヲ水一「オシス」ニ溶カセル溶液モ有效デアツテ治療ヲ助ケル。又種々ノ強度ノ硝酸銀ヲ使用シタルガ好結果ハ得ナカツタ。和カキ局所清淨ト殺菌の洗滌ハ試ムベキ指示デアル。

ワンサン氏生體ノ存在スル場合ニハコノ治療ヲオコタツテハナラナイ。ワンサン氏「アンギーナ」ヲ除ク事ハ屢々好影響ヲモタラスモノデアル。

「アトキシール」ハマルチン氏ニヨリテ試ミラレ好結果ヲ見タ。分量ハ〇・二、次ニ〇・四瓦ヲ皮下ニ用ヒテ中毒症狀ノ現レル迄使用スル。三十三日目ニハ最初ノ二十一倍ノ量ヲ使用シタ。中毒症狀ガ現レタナラバ一週間休憩シ〇・四瓦ヅ、更ニ四日間使用スル。

重篤ナル喉頭侵入ヲ見タ場合ニハ氣管切開ガ必要トナル。

余ハコ、ニ咽喉天疱瘡ノ患者ニシテワンサン氏「アンギーナ」ヲ伴ヘル一例ヲ報告シ、合セテ此症例ヲ余ト共ニ診タルグーヴスール病院ノ咽喉科部長ヤコブ・ブレスラー氏ニ敬意ヲ表スルモノデアル。

第一例。四十九歳ノロシア人 屠夫。初診一九二九年四月。病狀ハ初診時ヨリ六ヶ月以前ヨリ存セリ。患者ハ初診前二名ノ女醫ニヨリテワンサン氏「アンギーナ」トシテ局所治療及「ネオアルスフェナミン」靜脈内注射ヲウケテキタ。家ニアリテハ含嗽ヲ行テキタ。

繰返シ汚點ヨリノ檢索ハワンサン氏生體ガ證明セラレタ。發病ハ患者ノ言ニヨレバ咽喉寒感ヲ以テ初マリ、間モナク口内ヨリノ出血ト

強度ノ嚥下痛ガ伴ツタ。患者ハ醫師ノ治療ヲ受ケ乍ラモ漸次惡方ニ赴イテ行ツタ。

余ノ初診時ニ於テハ患者ハ非常ナ惡液質ニ陥リ、多數ノ廣大ナル潰瘍形成ハ舌、咽頭、扁桃腺索、口蓋及ビ齒齦ニ散在シテキタ。或モノハ侵蝕サレテ粗雜ナ出血セル表面ヲモチ、周縁ニ附着セル壞疽性ノ粘膜ノ斷片ガアツテ帶赤色ノ周縁デ取マカレテキタ。或モノハ白色ノ膜デ被ハレ膜ヲ去レバ直ニ出血ヲ見タ。病變ハ齒ノ方ニ掘リ下リ齒ノ大部分ハ非常ニ弛ミ内二本ハ病ノ經過中抜ケ去ツタ。病變ハ喉頭ニ波及セル徵候ナク、患者ハ疼痛ノ爲メ檢索ヲ許サナカツタガ次ノ檢索ニヨリ水泡ヲ發見シタ。或モノハ破レテ化膿菌ニヨリテ感染ヲ受ケ結痂デ被ハレテキタ。診斷ハ皮膚科ニ送り皮膚科學者ニヨリ確定ヲ見タノデアアル。患者ハ七月トナツテ體重モ更ニ減ジ、全身狀態モ餘程惡化シテカラ再ビ病院ヲ訪レテ來タ。ソノ時ハ少量ノ液體ヲ嚥下シ得ルノミデアツタ。患者ハ十月ニ至ツテ死シ丁度發病以來一年一ヶ月ヲ經過シテキル。

粘膜ニ病變ヲ見タルハ皮膚ニ發現スル以前數ヶ月ニシテ粘膜ノ症狀ハ餘リニ激烈ナル爲患者ハ皮膚ノ發現ニ就テ醫師ノ注意ヲ促サナカツタ。興味深キハ患者ノ職業ガ屠夫デアアル事デアアル。

第○例。コレハワインスタイン氏ノ所ノ患者デアツテ、氏ノ成サレタル檢案ヲ特ニ許可ヲ得テコ、ニ記載サセテ載ク事ヲ感謝スル。患者ハ四十歳ノ毛皮商人。市ノ三ツノ大病院ニ於テ、原因不明ノ口腔内潰瘍トシテ取扱ハレテキタモノデアアル。發初ハ二ヶ月以前デ口内

ニ多數ノ潰瘍ヲ以テ初マツタ。檢索ニ際シ軟及ビ硬口蓋、咽頭、舌扁桃腺索、頬粘膜ニ多數ノ散在性罹患部ヲ見タガ扁桃腺ニハ變化ハナカツタ。病變ハ豌豆大ヨリ銀貨大ニ至ル種々ノ大サデ、白色ノ膜樣痂デ被ハレ口蓋ハ肉芽狀ニ見ヘタ。懸壺垂ハ浮腫狀ヲ呈シテキタ。此時期ニハ未ダ口内及ビ皮膚ニ水泡ヲ發見セズ。患者ハ音聲嘶咽ノアリシ事ヲ述ベタケレ共喉頭ノ檢査ハ行ハナカツタ。

潰瘍ノ汚點ヨリハワンサン氏生體ヲ證明シタ。潰瘍ハ尙ホ鼻中隔及ビ眼結膜ニモ及ンデキタ、發病一ヶ月ノ頃ハ三十一「ポンド」ノ體重ガアツタガ現在ハ非常ニ惡液質ノ外觀ヲ呈シテキル。患者ハワンサン氏「アンギーナ」トシテ取扱ハレテ三日間ノ間ニ大變良方ニ赴キ潰瘍モ治癒ノ外觀ヲ呈スルニ至ツタ。治療ハ「ネオアルセフエナミン」ノ局所適用ト「サルファ―セフエナミン」ノ筋肉内注射及ビ含嗽ヲナシテキタ。二週間ノ後水泡ハ兩側ノ肘ニ發現シ、間モナク全身ニ擴ツタ。皮膚科醫ニヨリ天疱瘡ノ診斷ガ確定サレタ。患者ハ一ヶ月ヲ經テモ來ナカツタガ、彼ノ妻ニヨリ彼ノ生存セル事ト病狀ノ變化ナキ事ガ判ツタ。血液ノ檢査ハ何等ノ異狀ヲ認メナカツタ。

抄 録

慢性耳性頭部破傷風 (ローゼ氏型)

Chronischer otogener Kopfschmerz (Roseche Form)
Von Dr. E. Petzai

(Folia oto-laryngologica Bd. 19, H. 4, 1930.)